

カウトに入隊したいという大部分の少年は、大人の期待とは関係なしに、ボーイスカウトに入ると何かおもしろいことがあるだろうと思って入隊してくるものである。この大人達の願いに、少年達がやりたがっていることを組み入れてやれば、少年達は喜んで楽しみながら、大人達が希望する将来への道を進んでくれる。

(大人の願い) + (少年の好奇心) → (進歩制度)

ベーデンパウエルは「金箔ぬりの丸薬」という言葉を使っている。日本流に言えば「糖衣錠」であろう。少年には甘くて飲みやすいが、中味は体によくきく苦い薬が「進歩制度」であると考えてもよいだろう。

スカウト教育でいうところの進歩制度とは、大人と少年の両方を同時に満足させるために考案されている。スカウトが進歩し、向上するためには、どのようなことをやらせたらよいのかということを、年齢や能力、興味に合わせて、やりとげるのに適した程度の課目に設定してある。さらに、進歩制度は単なる目標を提示するだけのものではなく、スカウトがその課目に挑戦し、自ら進んで技能や知識の修得に熱中し、やがてそれらの技能が一定の水準に達すると、その記章を与えて表彰する仕組みになっている。

(進歩制度のねらい)

- ①意欲的な自発活動により、目標に向かって計画性と、最後まで成し遂げる実行力を身につける。
- ②楽しみながら進歩課程に進ませ、技能のみならず、身体的・知的進歩を図る。
- ③ちかい、おきて（カブはやくそく・さだめ、ビーバーはやくそく・きまり）を日常生活の中で実践する努力をすることによって、人格の形成と、精神的進歩を図る。
- ④自分の人生に自信と勇気を与え、健康と技能を社会に役立たせる。

※いずれもスカウトの自発活動が基本になっている。

スカウトの進歩課程には、スカウトとして、必ず身につけておかなければならない内容の（必修課目）と、幅広い、豊かな人間性を備えるようにと設定された（選択課目）がある。

カブスカウトの必修課目は「修得課目」、選択課目は「矢章課目」(平成2年からは「チャレンジ章課目」)。

ボーイスカウトの必修課目は「進級課目」、選択課目は「特修章課目・技能章課目」。
シニアスカウトの必修課目は「進級課目」、選択課目は「技能章課目」である。